

研修会に参加する前、炉辺談話で話てはいたものの、「タクナル」が本当に「～したくなる」からきていることにびっくり。けれども、プロセスを体験していくうちに、納得です。「そこにいるだけ」という状態はあり得ないように、入念に組み立てられたメソッドで、いつの間にか、そして否応なくそこにある問題、課題に取り組み「たくなる」、解決「したくなる」仕組みがプログラムされているのですから。

3つのワークを通した体験プログラムでしたが、順番ひとつとっても、いくつ?という数ひとつとっても、十分に考えられた理由があり、それがまた見事にはまって、私たちはすっかり「タクナ」ってしまいました。「あっという間だった」「もっと時間が欲しい」という言葉があちこちから聞かれ、この3時間という時間がどれだけ充実した時間だったか、改めてこのメソッドの凄さを認識させられました。

大学生対象のプログラムということでしたが、今回の体験から、小学生にも通用する、と言うより「タクナル」気持ちにさせることは、小学生も大学生も私たちも、年齢や立場に関わりなく、このメソッドが有効だということがわかり、全プログラムを通して受けたくくなりました。